

② 支え合い（手助けできること・してほしいこと）

地域福祉、高齢者福祉、障害者福祉の3調査で、「支え合い（手助けできること・してほしいこと）」に関してたずねました。

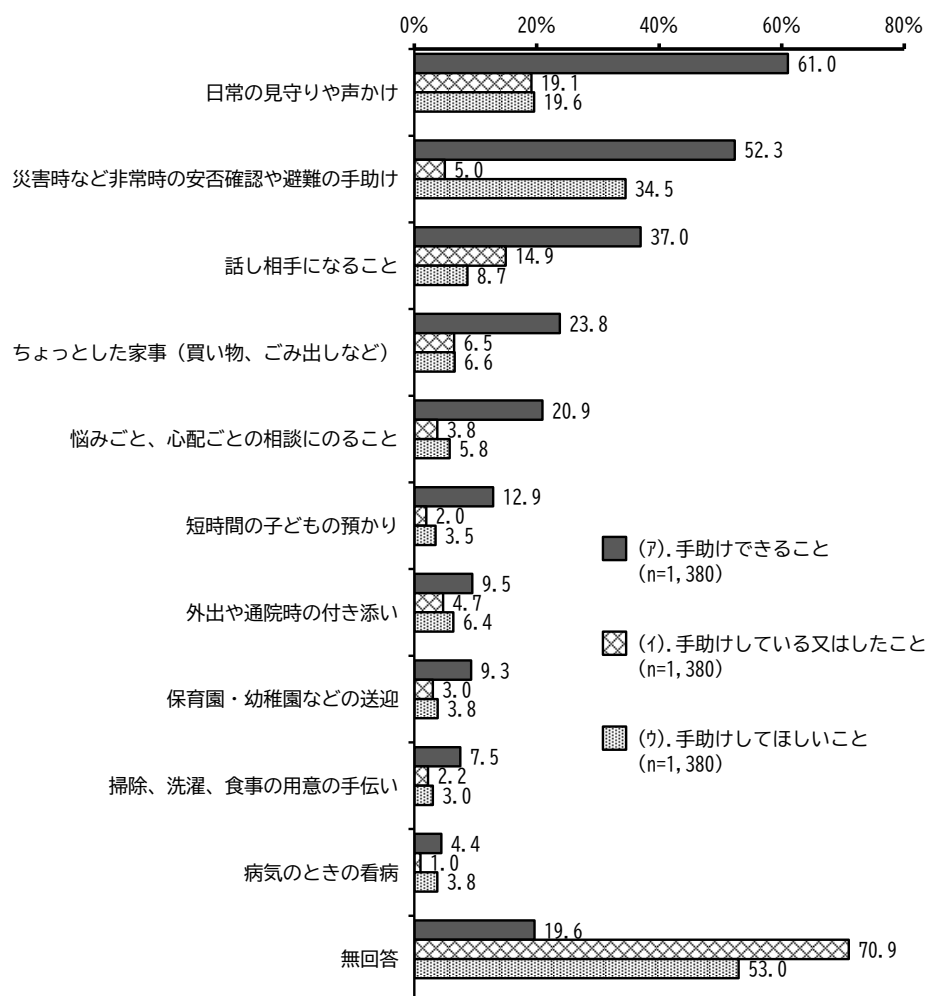
一般市民調査では、近隣で手助けできることとして「日常の見守りや声かけ」が最も多く、次いで「災害時など非常時の安否確認や避難の手助け」、「話し相手になること」と続いています。なお、「無回答」の19.6パーセントをのぞくと、回答者の80.4パーセントが、近隣で何らかの手助けができると答えています。

また、近隣で手助けしている又はしたこととして、「日常の見守りや声かけ」が最も多く、次いで「話し相手になること」、「悩みごと、心配ごとの相談にのること」が続いています。なお、「無回答」の70.9パーセントをのぞくと、回答者の29.1パーセントが、近隣で手助けしている又はしたことがあると答えています。

一方で、近隣で手助けしてほしいことでは「災害時など非常時の安否確認や避難の手助け」が最も多く、次いで「日常の見守りや声かけ」、「話し相手になること」と続いています。なお、「無回答」の53.0パーセントをのぞくと、回答者の47.0パーセントが近隣で何らかの手助けをしてほしいことがあると答えています。（図表3-2）

図表3-2 近隣で手助けできること、手助けしている又はしたこと、手助けしてほしいこと

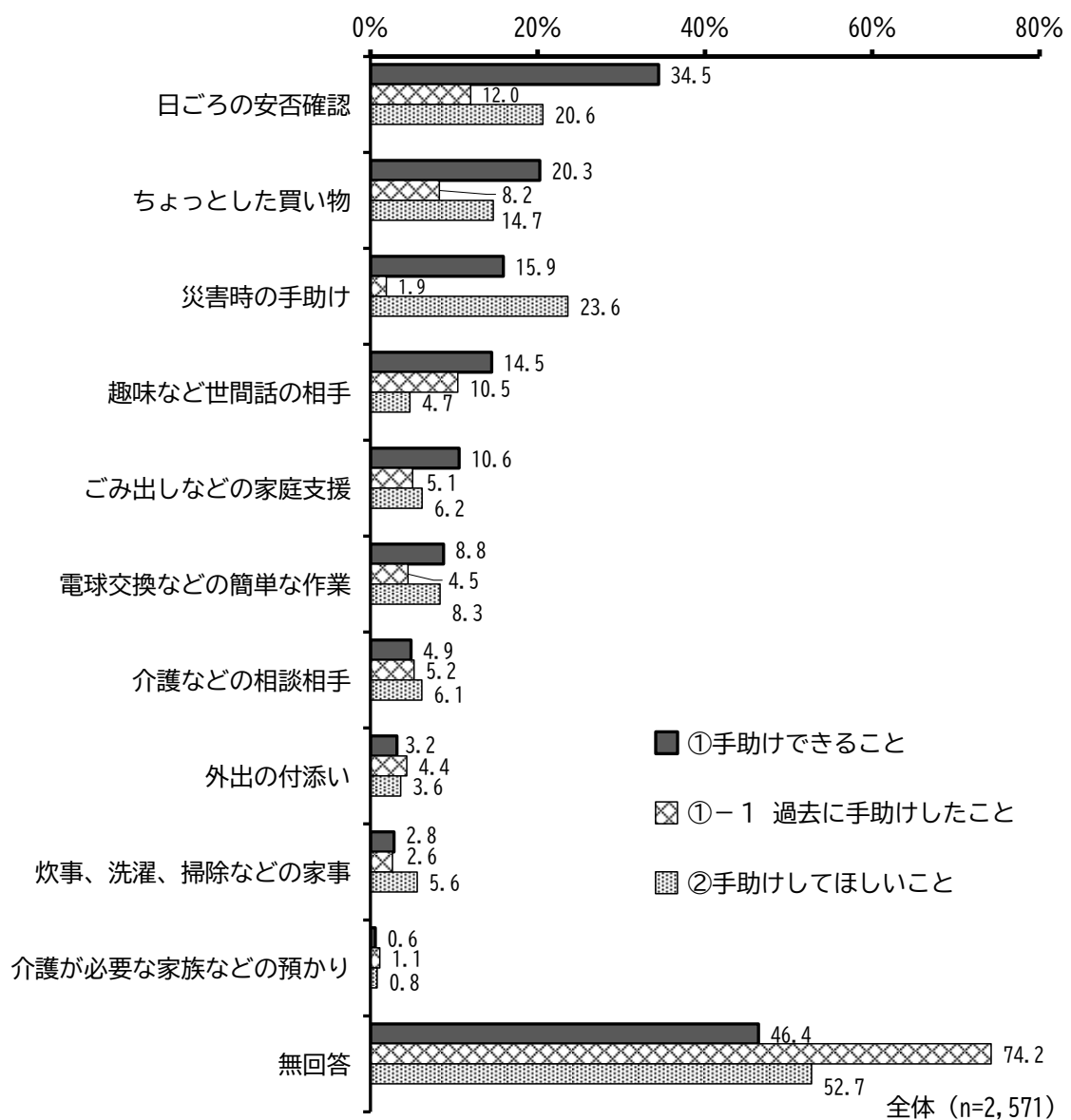
（一般市民調査：複数回答）



介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では、手助けできることとして、「日ごろの安否確認」が最も多く、次いで「ちょっとした買い物」、「災害時の手助け」、「趣味など世間話の相手」と続いています。「無回答」の46.4パーセントをのぞくと、回答者の半数以上の人が何らかの手助けができると答えています。なお、過去に手助けしたことでは、「日ごろの安否確認」が最も多くなっています。

一方で、手助けしてほしいことでは、「災害時の手助け」が最も多く、次いで「日ごろの安否確認」、「ちょっとした買い物」と続いています。「無回答」の52.7パーセントをのぞくと、回答者の47.3パーセントが何らかの手助けしてほしいことがあると答えています。(図表3-3)

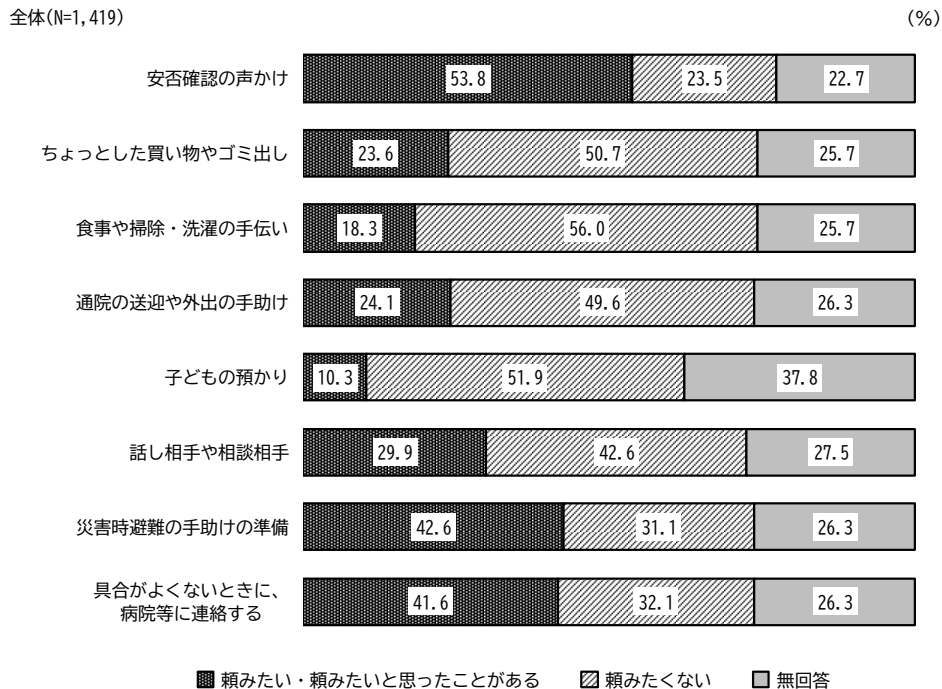
図表3-3 地域の支え合い(介護予防・日常生活圏域ニーズ調査:複数回答)



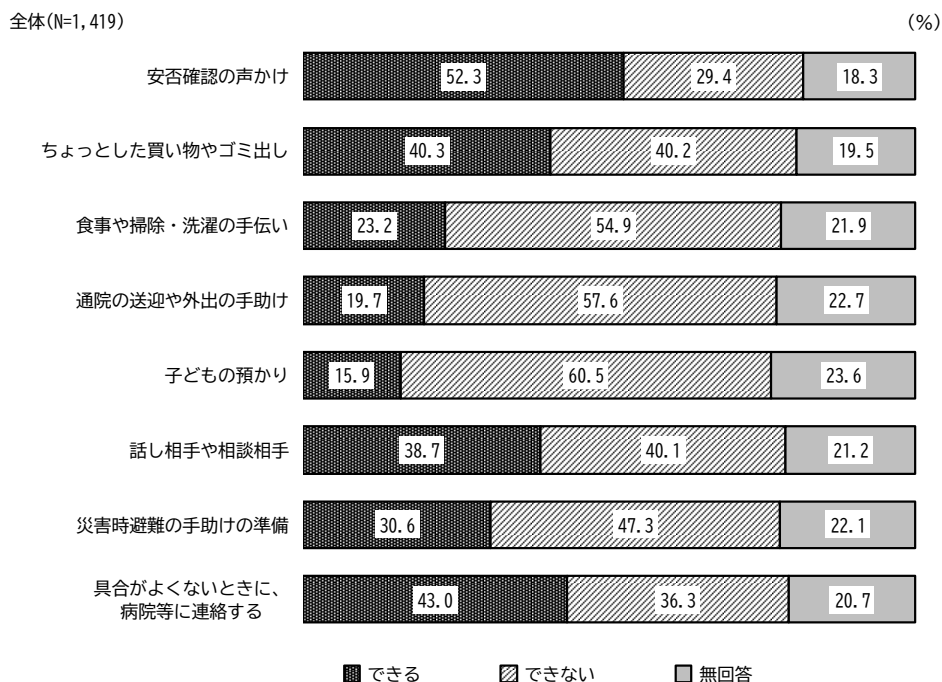
障害等のある人への調査では、地域で頼みたいこととして「安否確認の声かけ」が最も多く、次いで「災害時避難の手助けの準備」、「具合がよくないときに、病院等に連絡する」が続いています。(図表3-4)

また、地域で頼まれたらできることとして「安否確認の声かけ」が最も多く、次いで「具合がよくないときに、病院等に連絡する」、「ちょっとした買い物やゴミ出し」が続いています。(図表3-5)

図表3-4 地域で頼みたいこと(障害等のある人への調査:全体)



図表3-5 地域で頼まれたらできること(障害等のある人への調査:全体)



(2) 相談できる人

① 悩みや困りごとを相談できる人の有無

地域福祉、高齢者福祉、障害者福祉の4調査で、「悩みや困りごとを相談できる人の有無」に関してたずねました。

悩みや困りごとを相談できる人が「いる」の割合は、すべての調査で80パーセント以上となっていますが、特に介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は92.8パーセントと高くなっています。(図表3-6)

図表3-6 悩みや困りごとを相談できる人の有無

(一般市民調査、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、障害等のある人への調査、子どもの育ちや発達に関する調査)

			(%)		
			いる	いない	無回答
地域福祉分野	一般市民調査	(n=1,380)	83.3	14.2	2.5
高齢者福祉分野	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	(n=2,571)	92.8	2.3	4.9
障害者福祉分野	障害等のある人への調査	(n=1,419)	84.5	11.5	4.0
	子どもの育ちや発達に関する調査	(n=651)	87.7	10.8	1.5

(3) 認知症に対する意識

地域福祉、高齢者福祉の2調査で、「認知症に対する意識」に関してたずねました。

認知症に対する意識について、地域福祉分野と高齢者福祉分野でたずねました。一般市民調査は、「認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」が最も多く、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける」が最も多くなっています。(図表3-7)

図表3-7 認知症に対する意識について

(一般市民調査、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)

								(%)	
			認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で、今までどおり自立的に生活できる	認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける	認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる	認知症になると、暴言、暴力など周りの人に迷惑をかけてしまうので、今まで暮らしてきた地域で生活することが難しくなる	認知症になると、症状が進行してゆき、何もできなくなってしまう	無回答	
地域福祉分野	一般市民調査	(n=1,380)	6.2	36.6	38.6	4.0	9.0	5.6	
高齢者福祉分野	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	(n=2,571)	11.8	36.5	23.5	3.6	12.2	12.3	